



f facebook



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
FMD News Vol. 2 3をお届けいたします。

9月のTOPICS

■ 早期2型糖尿病患者におけるSGLT2阻害薬(ダパグリフロジン)の血管内皮機能及び血糖コントロールへの有効性 -DEFENCE studyからの報告

最近の研究では、SGLT2阻害薬の心血管イベント抑制効果が報告されていますが、2型糖尿病患者における心血管イベント一次予防としての内皮機能への効果を評価した研究はこれまでありませんでした。そこで今回は、心血管疾患既往歴のない2型糖尿病患者に対するSGLT2阻害薬ダパグリフロジンの内皮機能への効果を検証した初めての臨床試験「DEFENCE study」の報告をご紹介します。

心血管疾患既往歴がなく糖尿病治療中の患者80名をメトホルミン増量群(メトホルミン750mg/日から1500mg/日に増量)とダパグリフロジン追加投与群(メトホルミン750mg/日に加えダパグリフロジン5mgを1日に1回追加投与)の2群に分け、16週間の投薬前後でのFMDおよび血糖、脂質代謝、酸化ストレス、体重などの体組成指標を評価しました。

その結果、FMDはダパグリフロジン追加投与群で改善傾向がみられましたが、 Δ FMDは両群間で同等でした。ただ、 $HbA1c \geq 7\%$ の患者で分析したところダパグリフロジン追加投与群の Δ FMDはメトホルミン増量群と比較し有意($p < 0.05$)に改善していました。また、 $HbA1c$ 、血漿グルコース、血漿グルカゴンおよび体重は、両群共に有意に減少していました。

引用文献： Cardiovasc Diabetol. 2017 Jul 6;16(1):84

SGLT2阻害薬の心血管イベントの抑制効果について、2015年には「EMPA-REG OUTCOME」(エンパグリフロジン)で世界で初めて報告され、本年6月には米国糖尿病学会において「CANVAS Program」(カナグリフロジン)で同様の報告がされました。ただ、「EMPA-REG OUTCOME」では心血管疾患既往のある患者が対象であり、「CANVAS Program」では心血管疾患既往のない患者ではその抑制効果は示されておりません。また、現在検証が行われている臨床試験「DECLARE TIMI-58」(ダパグリフロジン)でも約4割が心血管疾患既往のある患者が対象となっているため、心血管イベントの一次予防としてSGLT2阻害薬が有効であるかは分かっていません。「DEFENCE study」試験の報告では、早期2型糖尿病および中等度高血糖症患者において、ダパグリフロジンとメトホルミンの併用療法は、心臓血管イベントの一次予防のための潜在的な治療選択肢であることを示唆していると締めくくられています。